

## 第1回 産業基盤部会発言要旨(3/25)

○いよいよこの時が来た。残り3ヶ月、皆さんの力を借りてがんばっていきたい。忌憚のない意見をお聴きしたい。

<事務局から説明>

○産業基盤部会が議論する項目の中に産業集積という表現があるが、これまでやってきたことを、あらためてもう一度議論しようということか。

○期間も短く、効率的に進めなければならないので活性化協議会かとの役割分担を進め、論議をしていただきたい。

○インフラ、共同利用という2つのキーワードがあげられているが、インフラでは地域企業の移転拡充による地域の特性を生かした集積の議論をいただき、どう事業活動を展開し地域内で循環していくか。あわせて高規格道路の整備を見込んだ戦略、どうやって人を引き込むか。空港アクセス、空港機能の拡充、十勝港の充実などもテーマとなる。単に議論だけでなく、具体的な提言も入れていく。この2つのテーマだけでいいのか。地域内循環を考えると人材、連携方策が出てくると思われる。ハードだけでなく、ソフトも議論してほしい。あくまで中小企業振興のための基盤として必要であることを議論したい。基盤というと、経営基盤と産業基盤、なぜ同じ基盤が議論されるかという引っかかる面もあると思うが、経営基盤は特定企業のミクロの問題、産業基盤はマクロの問題としてとらえ、特定企業のことを考えずにマクロ的な経済循環で議論をし、出口はどういった投資が必要となるかという面を想定している。マクロ的には雇用の維持確保が課題。事務局で用意したインフラと共同利用というテーマだが、条例の制定、部会の論議を引き継いで、この地域における循環について考え、主力の集積産業をどうするか、投資をどうするか。持続可能な雇用の増大をどうするか喧々囂々議論したい。皆さんから部会のテーマ、視点があれば上げていただきたい。

○産業基盤は、地域の経済循環の議論ととらえていい。単一の企業ではなく、業界での議論の集積をしていくことでいい。

○帯広市では産業政策論を企画サイドでどう整理しているか。

○産業政策は主として商工観光部で考える。次の総合計画の作業を進めているが、次の工業団地をどうするかなど社会資本整備については相当程度の財源投入が必要となるが、そ

ういった面も含め、総合計画に商工観光部として反映させていく。

○産業政策について、後から企画サイドから（議論とは違うような）案が出てくるとがくつとなる。

○われわれが議論していることと異なる方向性が出てくることはないと思う。

○議論のテーマは2つだけだとさびしいと思うか。

○行政として産業政策に対し、リーダーシップをとるものがその意識を持っていてもらわなければならない。2次産業の何を中心としてやるかとなると農業に関連する業種を中心としてやるということは考えられるが、方法論としてはその中で出てくる。研究開発、大学を中心とした公的な試験研究機関に重きをおいておくとか産業技術イノベーションにしていくということ。

○市役所の中で議論されているのか。

○R&BP で議論をしているが、絵姿で示す段階になっていないが産業支援の仕組みにどうつなげていくか。政策室で研究開発の側面から検討を進めている。

○産業の定義をしていかないとならないのではないか。

○限りある資源をどう循環させていくか。植田先生の話では中小企業政策は個々の企業に平等だが、産業政策というのは選択をしていくということだ。

○この地域農業は基幹産業だが、産業連関を起こしていない。農業側からすると商工と連携していく気持ちがあるのかというところではない。

○農業を地域の資源としてとらえた方がいい。

○地域資源を活用するという支援制度があるが、その制度を使っていない人が多い。農商工連携を基盤にしていくことはいいことだ。

○農商工連携ということで話し合う余地はある。

○先日、農水省経営局長が来た時にまさに帯広・十勝向けの政策であると話していた。

○小麦を地場で製粉することによって大手と連携できることがあるのではないか。それから付随して地域で最終製品まで出来てくればいいが、どこかで止まっている。

○農商工連携で農業と結びつくということになると、「商」というのをどう取扱い、アレンジされていくのか気になるところ。

○小麦にはどういう問題があるのか。それを解決し、メリットを生まない企業は出てこない。共同利用のキーワードでは R&B であり、北大の北キャンパスのような施設が共同利用できればいいと思う。

○商工会議所工業委員会で農商工連携をテーマとしており、地域循環ということから勉強していきたい。

○農商工連携の完成品としてお菓子屋さんがあるのではないか。そういったところから切り口に考えてもいいのでは。

○産業クラスターというと異業種がたくさん固まっているというイメージがあるが、カリフォルニアのワインクラスターなどはぶどうとワイナリーしかない。地域において優位な産業であって、はじめてクラスターになる。産業クラスターが形成されるということは産業の基盤があるという裏返し。この地域に欠けている、不足しているものを取り出してこない、一般論を持ち出してもしょうがないので優位にしていく基盤づくりのための議論が必要。

○まず地元の基盤の状況を知ることが必要では。

○産業基盤部会では、まずインフラのことをやる。産業クラスターの話も入れながら地域特性を入れてやる。共同利用は R&B もあるので、コンパクトな施設という視点で必要ではないか。農商工が連携して地域内循環について議論をしていくという3点になるかと思うが次回までこのテーマでも議論した方がいいというものを出してほしい。視点、留意点、地域の特性を考えた時、どういう課題があるかそれを持ち寄って次回話をしたい。